

福知山市商工会 企業業況調査

令和2年10月調査結果(令和2年7月～9月分 調査対象 83件) (令和2年11月7日公表)

■景況感

	今回調査数	現状		先行3ヶ月		先行1年		
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	
全体	83	28.3	25.3	28.9	25.9	31.6	27.7	
地域別	三和	18	23.6	19.7	25.0	21.1	27.8	26.3
	夜久野	28	26.8	21.4	26.8	25.9	27.7	28.6
	大江	37	31.8	31.1	32.4	28.4	36.5	27.7
業種別	製造業	25	31.0	23.9	32.0	27.3	39.0	33.0
	建設業	24	37.5	31.7	34.4	32.7	31.3	26.9
	卸小売業	9	22.2	25.0	22.2	20.5	25.0	25.0
	サービス業	25	19.0	20.0	23.0	20.0	27.0	25.0

景況感DIの算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出
 良い+1.0、やや良い+0.75、どちらともいえない+0.5、やや悪い+0.25、悪い+0.0
 (すべてが「どちらともいえない」と回答した場合、DIは「50.0」)

現状は、景況感DIは28.3と前回調査よりも3ポイントのプラスとなった。地域別で見ても、三和が3.9ポイント、夜久野が5.4ポイント、大江は0.7ポイントのプラスになっている。業種別では製造業で7.1ポイント、建設業で5.8ポイントのプラスである一方で、卸小売業で2.8ポイント、サービス業で1ポイントのマイナスとなっている。製造業及び建設業は、前回調査より景況感は上向いているが、小売業及びサービス業においては、改善は見られない状況にあり、回復には時間がかかるものと思われる。

先行調査では、先行3ヶ月が3ポイントのプラス、先行1年が3.9ポイントのプラスと徐々にではあるが回復傾向が伺える。業種別に見ると、先行3ヶ月ではすべての業種において1.7～4.7ポイントのプラスとなり期待感も感じられる状況にあるが、今後のコロナウイルス感染症拡大如何にもよるが予断を許さない状況であると思われる。

■経営動向

○製造業・建設業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
引合			-26.5	-43.8	-26.5	-31.9
売上			-36.7	-45.8	-32.7	-44.7
採算	-12.2	-25.0	-32.7	-26.1	-34.7	-22.2
資金繰り	-20.4	-22.9				
業況	-40.8	-45.8				

経営動向DIの算出方法

「良い」とみる割合(%)から、「悪い」とみる割合(%)を引いてDIを算出

(「良い」と「悪い」の割合が同じ場合、DIは「0」)

(製造業・建設業)グループと、(卸小売業・サービス業)グループに分類して集計をしている。

○卸小売業・サービス業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
売上			-76.5	-80.6	-41.2	-66.7
客数			-67.6	-66.7	-44.1	-66.7
客単価			-52.9	-37.1	-35.3	-36.1
採算	-44.1	-50.0				
資金繰り	-50.0	-50.0				
業況	-67.6	-66.7				

★今期の経営動向

製造業・建設業においては、景況感に表れるように、すべてにおいて改善傾向にある。特に採算においては前回比で12.8ポイントプラスと改善幅が大きくなっている。前回調査より、資金繰りについては2.5ポイントのプラス、業況については5ポイントのプラスとなっており改善傾向にあるもののコロナ前の状況には程遠い状況にある。

卸小売業・サービス業においは、採算では、前回調査より5.9ポイント改善しているが、資金繰り及び業況については、横ばいあるいは微減傾向にあり、先行きの不安が増しているものと思われる。

★前年同期比、前期比

製造業・建設業においては、前年同期比では、引合いが17.3ポイント、売上が9.1ポイント改善している一方、採算面では6.6ポイントのマイナスであり、利益率の低下等による採算は悪化傾向にある。前期比も前年同期比同様、引合い及び売上はそれぞれ5.4ポイント、12ポイントと改善傾向にあるものの、採算では12.5ポイントのマイナスとなっており厳しい状況にある。

また、卸小売業・サービス業については、前年同期比では、売上が4.1ポイントのプラスと多少の改善は見受けられる

が、マイナス76.5ポイントの高い数値に変わりはない。また、客数と客単価については改善は見られず、特に客単価は15.8ポイントの大幅なマイナスとなっている。前期比については、コロナウイルス感染症拡大の影響が顕著であった前期と比べ、引合いが25.5ポイント、売上が22.6ポイントプラスと大幅な改善が見られ、採算についても、0.8ポイントと僅かながら改善傾向にある。今後の、コロナウイルス感染症拡大に注意を払っていきたいところである。

■ 今期直面している経営上の問題点（業種別上位5項目 項目の後の()は前回順位(同順位あり)、業種の後の数字は選択された数)

	製造業(56)		建設業(59)		卸小売業(24)		サービス業(61)	
1位	従業員の確保難(2)	14.3%	事業資金の借入難(2)	18.6%	事業資金の借入難(1)	16.7%	事業資金の借入難(4)	20.8%
2位	事業資金の借入難(1)	12.5%	金利負担の増加(1)	16.9%	競争の激化(2)	16.7%	従業員の確保難(1)	18.9%
3位	金利負担の増加(4)	12.5%	従業員の確保難(3)	15.3%	消費者ニーズの変化(5)	16.7%	設備の不足、老朽化(2)	13.2%
4位	仕入価格の上昇(-)	12.5%	人件費の増加(4)	8.5%	設備の不足、老朽化(-)	12.5%	人件費の増加(3)	13.2%
5位	設備の過剰(3)/人件費増(5)	8.9%	消費者ニーズの変化(5)	8.5%	人件費の増加(-)	12.5%	仕入価格上昇(5)/設備過剰(-)	5.7%

3月以降拡大傾向にある新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前回調査時点から、事業資金関係での問題点が上位を占めるようになった。今期においても、多少の変動はあるものの、同様の傾向が続いている。業種別に見ると、製造業では、従業員の確保難が前回と横ばいの数値であり、根本的な課題となっている。また、仕入価格の上昇が新たに上位に上がっている。建設業では、金利負担の増加は横ばいであるが、前回比で事業資金の借入難が3.2ポイント、従業員の確保難が3ポイントアップしている。卸小売業では、事業資金の借入難が前回同様トップであるが、15.3ポイントのマイナスとなっているものの、競争激化により資金繰りの悪化が懸念される。サービス業では、トップの事業資金の借入難が前回比で3.6ポイントアップとなり厳しさを表しており、今後も予断を許さない状況にあるものと思われる。

この調査は、福知山市商工会会員事業所を対象として、景気判断や経営動向等を明らかにし、売上向上を目指した事業計画の策定、販路開拓や商品開発、事業承継、経営改善等経営力向上を推進する基礎資料として活用することを目的に実施しています。

次回は令和2年10月～12月の状況について、令和3年1月に調査する予定です。商工会の支援員が調査にお伺いしますので、調査対象の事業所様には引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。